

(翻訳：凜峰／校正：祀夜)

シリズ：んふふ。あらあら！てっきり私たちのことまだ夢や幻を勘違いしてる
と思うわ！

シリズ：ただし、これは夢も幻も違うわ！私たちはここに実在するものよ！

シリズ：もちろん本当さ！離れたからここの数日、私とルルはずっとあなたの
ことをこっそりと見ているよ！

シリズ：あなたは何をしているのか……

シリズ：（囁き）全部、し・て・る・よ！

シリズ：さ、ルル。私たち最近何を見たのか、彼に教えなさい。

ルル：はい、シリズ様。

ルル：三日前の午後、あなたは同僚の女性が前屈みの時、シャツのボタンが締
めてないのせいで、胸元がちらりと見ました。

ルル：彼女に小さな声で「変態」と叱られたけど、彼女はシャツのボタンを締
め直すのを、あなたに手伝いをさせたんです。

ルル：それと一昨日のことです。彼女はわざとらしいと胸をあなたに当てる
……それが腕に当たった……あなたも避けませんでした……

シリズ：こらこら、その手が何をするつもり？ルル、この男の腕を太ももに挟
みなさい！

ルル：は、はい！

シリズ：どうだ？あなたの両腕は今私とルルの胸と太ももで挟まれたのよ。

シリズ：こんなに幸せなこと……あなたにしかもらえないのよ！

ルル：あっ……うう……シリズ様……この男の手……アソコに当たってます
……熱い……

シリズ：ほっておく。この男がここ数日やったことを続けて話しなさい！

ルル：はい……

ルル：昨日、あなたはあの女を家まで送りました……彼女……彼女はあなたに
キスをしました……

シリズ：（囁き）ど・こ・に・キ・ス・し・た？

ルル：く……く、口です……口と口、です……

シリズ：あらあら、冷や汗が出てきたわよ、どうした？

シリズ：こっちに向けて、私を見なさい！

ルル：シリズさ、さま……

ルル：あ、あの……ル、ルルもしてみたい、です……

シリズ：（咥えながら）ん？

シリズ：（ゴクリ）あら～ルルがこんなに積極的なのは珍しいね、さ！

ルル：あっ……ん……

シリズ：ね、知ってる？私が気に入ったの男が、別の女と浮気すると……大変なことになるわよ！

シリズ：あの淫乱なエルフたちとは違って、私の所有物が他の人に目をかけるのが許せないよ、例えちらりするでも！

シリズ：しかしルルのことは別だよ、私のものも彼女のもの。一緒でもいいのは彼女だけ……そう、あなたのことも！

シリズ：さ、ルル！そろそろこの私を裏切ったの悪い子をお・し・お・きね！

ルル：（咥えながら）はい……

シリズとルル：あーん！

シリズ：（囁き）こういう時に手が動けないなんて……辛いでしょう？

シリズ：他の女に目を移ったのあなたが悪いのよ？

シリズ：そんなことないって？キスもしたのに、よくもそんなことを言い出すわね？

シリズ：帰ったらその数日間、私たちのことをオカズしてオナニーをしていたのに……

シリズ：何日観察しようと思ったら、まさかすぐに他の女を発情するなんて……ん？

ルル：シリズ様……あたし、あれを……触りたい、です…

シリズ：うふふ、ルルはもうしたいの？

シリズ：まあ、布団をめくって見ると……

ルル：す、凄く勃ってます……ズボンの中から……

シリズ：可哀想に……おちんちんが下着をこんなに持ち上ったのね……あら？

先っちょから何が……うふふ……

シリズ：何かぬるぬるのが出てきたわね！

シリズ：こんな時に両手が胸と太ももに挟まれて……逆に苦しいでしょう？

ルル：シリズ様……あ、あたしは……もう……

シリズ：ふふふ、はーい～分かった。一緒に……足で彼のパンツを脱げよう！

ルル：やっと……ま、また……はっ……熱い…前と変わらないですね……それ

ではあたし……

シリズ：こう見えて、ルルはあの時からすっかりあなたのおちんちんの虜よ

ルル：ん……ん……

シリズ：でもね、先も言った、今日はお仕置きするのよ。

シリズ：だから……あなたは私たち好きなように弄られるだけ、何も出来ない
のよ。

シリズ：ふふふ、それじや私も始めるわよ！既に竿はルルに取られたなら……

シリズ：なら私は……この下品で、私たちに発情させるの亀頭の担当ね！

シリズ：（咥えながら）私が指で、唾液と……あなたの変態な、エロ汁を……

混ぜましょう！

シリズ：もちろん、こっちを逃すつもりないわ！

シリズ：ん……ん……

ルル：はっ……はっ……この男のおちんちんが……まだ熱くて、粗くて、大きくなるんです……

シリズ：ダメよ、ルル、今日は罰を与えるために来たんだから！

ルル：で、ですが……あ、あたしのアソコが彼の手に擦られたから……もう……

シリズ：あらあら、ちゃんと我慢しないと！ルル！

シリズ：この男の亀頭を見て……エロ汁が溢れて続けるわよ！まるで女の子みたい！

シリズ：ん？私のせい？まだ口答えするの？ふーん、じゃ、私は指をおちんちんの穴に入れるわよ、突然広げられちゃうと痛いかな！

ルル：シリズ様、ダメ……あがが壊れたら……ルルは……

シリズ：はいはい、好きだと知ってるから、ここで勘弁してやるわ！

ルル：あ、ありがとうございます……はっ……はっ……

シリズ：んふふ、ルルが許してほしいから、ちゃんと感謝しなさいよ！

シリズ：そろそろ我慢できないかな？顔が赤くて、ハアハアしてて、耳もますます熱くなったわね。

ルル：（耳を咥えながら）ル、ルルは……あなたのハアハアする声が……聞きたいです……

ルル：（耳を咥えながら） それと、ルルが好きって言ってもらいたい……

シリズ：（耳を咥えながら） ふふふ、ほら、ルルはあなたのこと本気で好きになったよ。あなたの返事は？

シリズ：（耳を咥えながら） 声が小さいわ、これがうちのルルの告白への返し？

ルル：（耳を咥えながら） うう……まさか……あたしなんかより……

シリズ：（耳を咥えながら） ん？

ルル：（耳を咥えながら） よ、よかったです……はっ……はっ……あん……

ルル：（耳を咥えながら） ルルも……男に好かれることが……できたんですね……はっ……はっ……ん～

シリズ：よーし、大きい声で答えるから、後悔は許さないわよ！

シリズ：ルル、返事がもらえる以上、そろそろ……本題に入りましょう！

ルル：（耳を咥えながら） はい……そ、それでは……あーん～

シリズ：んふふ、じゃ私もいただくわ！

シリズ：（耳を咥えながら） どう？あの人間の女より……私たちのほうがずっといいでしょ？

シリズ：（耳を咥えながら） 彼女なら絶対こんなことをしてあげないわ。

シリズ：（耳を咥えながら） でも私たちは、身も心も……あなたにあげるわ！

ルル：（耳を咥えながら） だ、大好きです……

ルル：（耳を咥えながら）あなたは……初めて…ルルにあんなことをした人です……

ルル：（耳を咥えながら）ルルはもう……他のものを受け入れることを…できません……

ルル：（耳を咥えながら）あなたのとシリズ様のしか……

シリズ：あなたわね、あの夜でルルがこんなになっちゃって……ここまでヤンデレだと知らなかつたわ……

シリズ：私のメイドをこんな風しちゃつた、せ・き・に・ん・を・取つ・て・も・ら・う・わ・よ！

ルル：（耳を咥えながら）好き……好き……すき……すき……好キ……好キ… …スキ……スキ……

シリズ：んふふ……

シリズ：もうダメ？いいわよ！私と……ルルに対する愛を……ぜん b ——

ルル：（耳を咥えながら）シリズ様……あたし……あたし……欲しい……

シリズ：ん？ルル、何が言った？

ルル：（耳を咥えながら）あたし……あの、その……はつ……はつ……

シリズ：どうした？ルルは、足でこの男の手を挟んで、耳を舐めってるだけに、もういちやうの？

シリズ：ルルがこんなになったのに、まだ我慢するの……

シリズ：（耳を咥えながら）うう……あっ……うう……あっ……あああああ

あああ一一一つ……

シリズ：あ、あなたはね……私の手にぶっかけるなんd……

ルル：あーん～ちゅろ、ちゅぱ……れる……ちゅる……

シリズ：ル、ルル？あなた……あらら……はあ……

ルル：（液体を含んでいる）ルルは……きれいにしました…シリズ様の手を…

…

ルル：（ゴクリ）はっ……はっ……素敵です……この味……

シリズ：あら、あなた。うちのルルをこんなに淫乱なヤンデレにしちゃって、

そこにハアハアするだけって？

ルル：ル、ルルはこれで満足です。

ルル：本当に……あたしはしあわs……ん、ん、ん！

シリズ：そうそう、そうしなきゃ！

ルル：ず、ずるいです……急に……あたしも……もっと欲しい……ん～

シリズ：これからは、私たちは時々お邪魔するわよ！

シリズ：まあ、うちのルルのためにもね。彼女をここで連れなきゃ、また迷つ

ちやつたら面倒だしね！

シリズ：私も……ずっとそばにいるから。でも、裏切ったら、その結果……言

うまでもないでしょう？んふふ！

シリズ：はいはい、そこ、キスはもう気が済んだ？いい加減にしなさいよ、ほんとに。そろそろ寝るの時間よ！

ルル：んへはっ……はっ……はっ……ルル……幸せです……

シリズ：まったく、ここへ來るために、私のほうこそ、魔力の消耗が激しいのに！結局私だけ補充できなかつた！

シリズ：まずは休んでね、明日の朝は……何回でもしてあ・げ・る！

ルル：明日は……また……はっ……はっ……

シリズ：はいはい～ルル、いい子でね～それじや、一緒に寝よ！

シリズとルル：お・や・す・み！